

Tsuyama College		Year	2020		Course Title	学外実習A
Course Information						
Course Code		0035		Course Category	Specialized / Elective	
Class Format		Practical training		Credits	School Credit: 1	
Department		Department of Mechanical Engineering		Student Grade	5th	
Term		Year-round		Classes per Week	1	
Textbook and/or Teaching Materials						
Instructor		NISHIKAWA Kotaro				
Course Objectives						
学習目的：企業での実習を通して学校の授業では得られない実践的な技術に触れるとともに、組織的取り組みの中で、指導者との意見交換や報告書の作成を通じてコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める。						
到達目標： ◎ 1. 組織の中で周囲と協調して仕事を進めることができる。 ◎ 2. 得られた成果についてわかりやすく口頭発表し、質疑に対して適切に応答できる。 ◎ 3. これまでに学んだ知識と企業活動等との関わりについて理解し、自らのキャリアデザインに活かすことができる。 ◎ 4. 技術者の社会に対する責任について理解できる。						
Rubric						
	優	良	可	不可		
評価項目1	組織の中で周囲と協調して主体的に仕事を進めることができる。	組織の中で周囲と協調して仕事を進めることができる。	仕事を進めるにあたり、組織のルールを守ることができる。	左記に達していない。		
評価項目2	得られた成果について、パワーポイント等を用いて効果的にまとめ、自らの言葉でわかりやすく説明できる。また、質疑の意図を理解した的確な応答ができる。	得られた成果について、パワーポイント等を用いて整理し、わかりやすく説明できる。また、質疑に対して適切に応答できる。	得られた成果について、パワーポイント等を用いて整理し、説明できる。また、質疑に対して応答できる。	左記に達していない。		
評価項目3	これまでに学んだ知識と企業活動等との関わりについて十分に理解し、自らのキャリアデザインと継続的な自己研鑽に活かすことができる。	これまでに学んだ知識と企業活動等との関わりについて理解し、自らのキャリアデザインに活かすことができる。	これまでに学んだ知識と企業活動等との関わりについて漠然と理解し、自らのキャリアを想像できる。	左記に達していない。		
評価項目4	技術者の社会に対する責任について十分に理解し、関連する法令やモラルも含めて具体的に説明できる。	技術者の社会に対する責任について理解し、具体例を挙げて説明できる。	技術者が社会に対して責任を負っていることを理解している。	左記に達していない。		
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	一般・専門の別：専門					
	学習の分野：実験・実習					
	必修・履修・履修選択・選択の別：選択					
	基礎となる学問分野：工学／機械工学					
	学科学習目標との関連：本科目は機械工科学習目標「（３）設計製図、実験・実習等の体験的学習を通じて、知識理解を深化させると同時に、実験の遂行能力、データの解析能力および考察能力を身につける」および「（４）自発的学習を含む科目の学習を通じ、創造的、主体的、積極的にモノづくりに取り組み、学んだ技術・知識を具体的なモノづくりに応用できる能力を身につける」に相当する科目である。					
Style	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F)コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成、F-1：日本語による発表や討論・記述をとおして、自分の考えを相手に表現できること」であるが、付随的には「D-3」、「F-2」、「H-1」にも関与する。					
	授業の概要：実際の実務の現場で実習を行うことによって、社会のニーズを肌で感じ、技術者としての素地を高めるとともに、報告書の作成・プロジェクター等を用いての成果発表を通してプレゼンテーション能力を高める。					
	授業の方法：夏季休業期間など学業に差し障りのない期間を利用して学外の企業等で実習を行う。実習終了後、実習報告書を提出し、別途定める日程で開催される報告会で実習内容を発表する。事前の指示事項・報告書の作成・プレゼンテーションについては各自配属された指導教員の指導下で行う。					
	成績評価方法：1日の履修時間の上限を8時間とし30時間以上の履修が必要である。これを前提として以下の評価を行う。実習証明書記載の派遣先による評価（30％）、実習報告書（30％）、プレゼンテーション内容（40％）で評価する。履修時間が不足するとき27時間以上履修している場合には学内措置を実施することがある。詳細はガイドンスで説明する。					
Notice	履修上の注意：実習期間中は障害保険および賠償責任保険に必ず加入すること。実習証明書と学外実習報告書の提出ならびに報告会での実習内容の発表が必須である。選択科目（自発的学習科目を除く）のうち認定できる単位数は、専門科目については学外実習AまたはBを含めて6単位以内である。実習は原則として学業に差障りのない期間とする。					
	履修のアドバイス：実習終了後に実習報告書の提出と報告会があることを当初から念頭において実習に取り組むこと。					
	基礎科目：これまでの全専門科目					
	関連科目：長期インターンシップ（専1）					
	受講上のアドバイス：実習中は、学生らしい服装をし、初日と最終日は整った服装（スーツなど）で出社すること。また、社内規律、作業内規等の規律に従うこと。実習期間中はこまめにメモを取ること。その日の実習内容をまとめておかないと、報告書の作成ができないので注意すること。					
Course Plan						

			Theme	Goals
1st Semester	1st Quarter	1st	実習期間は夏季休業中など学業に差し障りのない期間であり、詳細な日程は受け入れ先によって異なる。大まかな日程は以下の通り。 (実習前) ・ガイダンス（履修に関する詳細説明が全学科共通の日程で実施されるので必ず参加すること。）（2時間） ・受入先企業一覧の掲示 ・派遣先の決定および指導教員の決定 ・指導教員による事前指導 (5日間) ・学外における実習（30時間） (実習後) ・指導教員への報告および発表準備，報告書作成（8時間） ・学外実習報告会（2時間） ・学外実習報告書提出	企業の業務や大学の研究等について理解し，科学技術および技術者の社会的責任について説明できる。
		2nd		
		3rd		
		4th		
		5th		
		6th		
		7th		
		8th		
	2nd Quarter	9th		
		10th		
		11th		
		12th		
		13th		
		14th		
		15th		
		16th		
2nd Semester	3rd Quarter	1st		
		2nd		
		3rd		
		4th		
		5th		
		6th		
		7th		
		8th		
	4th Quarter	9th		
		10th		
		11th		
		12th		
		13th		
		14th		
		15th		
		16th		

Evaluation Method and Weight (%)

	派遣先企業評価	発表	報告書	Total
Subtotal	30	40	30	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	30	40	30	100